

2023 としょかんの あれこれ ブックガイド

パート 27

3・4年生むき



いるましりつとしょかん ☎2964-2415

ホームページアドレス <https://lib.city.iruma.saitama.jp/>

3・4年生のみなさんに、
より一層本が好きになり、
読書力が身に付くような本を
選びました。
現実では体験できないような事も、
本の中では可能です。
興味や関心を深めてくれる本と、
友だちになりましょう！

「海のこびととひみつの島」

サリー・ガードナー/作
リディア・コーリー/絵
中井はるの/訳
ポプラ社 ものがたり《ガード》

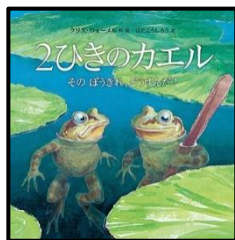


“海のこびと”をしていますか？
人間よりもずっと小さく、海でひろったガラクタで洋服をつくったり、島をつくったりしてくらしているこびとたちのことです。もうすぐ年にいちどの「かがやく海祭り」。でも、こびとたちにはこまったことが…。それは、海にたくさんのペットボトルやプラスチックが流れついてくることでした。

海をよごさないようにするにはどうすればいいか。
楽しいお話を読みながらじっくり考えてみませんか？

「2ひきのカエル」

そのぼうきれ、どうすんだ？」
クリス・ウォーメル/作・絵
はたこうしろう/訳
徳間書店 えほん《と9》



もりのおおきな池のすいれんのはっぱの上に2ひきのカエルが休んでいました。ぼうきれをもった心配しゅうのカエルに、どうしてそんなぼうきれをかかえているのかともう1ひきのカエルは大わらい。でも、その時うしろから、大きなカワカマスが口をひらいて2ひきのカエルを飲みこもうとしています。

2ひきのカエルのかけあいのおもしろさを楽しんでみましよう！

「なりたいわたし」

村上しいこ/作
北澤平祐/絵
フレーベル館 ものがたり《むらか》



小学3年生の千愛は学童クラブ「くれよん」で3人の同きゆう生とよくあそんでいました。しかし、その3人はそれぞれのしょう来のゆめを見つけ、学童クラブをやめることになってしまいます。それから千愛と3人とのなかがぎくしゃくしてしまいます。千愛はしょう来について考え、なやみます。“なりたいわたし”を見つけることができるのでしょうか。

「戦争をやめた人たち」

1914年のクリスマス休戦」
鈴木まもる/文・絵
あすなる書房 えほん《あ5》



これは本当にあったお話です。1941年、第一次世界大戦。寒い冬の戦場でドイツぐんとイギリスぐんのへいしたちは、「ざんごう」に入り、おたがいにうちあいをしていました。ある夜、イギリスぐんのへいしたちの耳に、ドイツぐんのへいしたちの歌声が聞こえてきました。言葉はわからないけれど、よく知っている歌でした。その日は、クリスマスイブだったので。聞こえてきたのは、どんな歌だったのでしょうか。そしてクリスマスの日におきたできごととは？

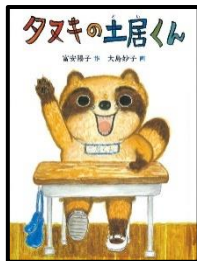
このへいしたちは一体どうやって戦争をやめたのでしょうか。

「タヌキの土居くん」

富安陽子/作

大島妙子/絵

福音館書店 ものがたり《とみや》



さんかく山のふもとの山下小学校。新学期が始まったさいしょの月曜日、一番のりをめざしたアカネちゃんが登校すると、となりのせきにタヌキが！

「もしかして…、あなた土居くんなの？」

今までの土居くんは、なんとタヌキが化けていたのです。今学期の目ひょう“なかよく、元気に、しょうじきに！”を見てタヌキは化けるのをやめて、タヌキのまま登校することにしたようですが……？

さて、これからどんなことがおきるかは、読んでからのおたのしみ。

「きょうはふっくらにくまんのひ」

メリッサ・イワイ/作

横山和江/訳

偕成社 えほん《か1》



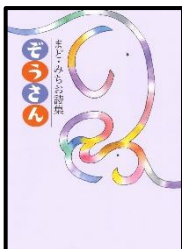
主人公のリリがナイナイと肉まんを作っていたら、キャベツがありません！同じアパートに住むバブシアにもらいにいきますが、今度はジャガイモがみつようになって…。アパートの住人たちのりょうりを完成させるため、リリは階だんを何度ものぼりおりして、ざいりょうをとどけます。できたてのりょうりを持ちよったパーティでリリを待っていたのは…。

肉まんとともにほんわかした気持ちになる一さつです。肉まんのレシピも出ています。

「ぞうさん まど・みちお詩集」

まどみちお/詩

童話屋 《911》



「ぞうさん」のうたを歌ったことはありますか？この本は童謡のもととなった「ぞうさん」の詩をタイトルとした、まど・みちおさんの詩集です。動物や虫や野菜など、みなさんが親しみやすいものをテーマとした詩が集められています。

うれしかったり、かなしかったり、色々な気持ちを短い文章で表しています。数々の詩の中から、お気に入りの詩をみつけてみてください。

「すずりくん 書道具のおはなし」

青柳貴史/作

中川学/絵

あかね書房 《728》



「文房四宝」ってなんだか分かりますか？小学校の習字のじゅぎょうで使う「筆」「墨」「紙」「すずり」のことです。この本では、この4つの道具のやくわりや、どうやって作られているかなどを分かりやすくしょうかいしています。

こせいゆたかな文房具たちが出てくるこの本を読んだら、習字のじゅぎょうがもっと楽しみになるかもしれません。

「ふしぎなメリーゴーラウンド」

リーザ=マリー・ブルーム/作

はたさわゆうこ/訳 こやまこいこ/絵

徳間書店 ものがたり《ブルー》



おじいさんが作った木ぼりの動物のメリーゴーラウンドにはひみつがありました。なんと動物たちは夜になると30分間だけおしゃべりするのです。その間、おじいさんはえさをあげ、動物たちをたくさんかわいがっていました。しかし、メリーゴーラウンドの新しい持ち主は、お金もうけのことばかり考えていて、動物たちのことをちっとも考えてくれません。動物たちはさみしくてたまりません。そんなある日、動物たちに次々とふしぎなことが起こります。動物たちはどうなってしまうのでしょうか！？

「はっこう 地球は微生物でいっぱい」

小川忠博/写真・文

横山和成/監修

あすなろ書房 《588》



今、「菌」というと、ばい菌とかコロナウイルスなどとむすびつけがちですが、わたしたちの世界には「菌」がじつはたくさんいます。「菌」がいなかったら食べられなかったものや、飲むことのできなかったものがたくさんあります。そしてわたしたちの体が元気でうごけるのも、「菌」がはたらいてくれているからなのです。

身近にあるけれども、ふだんは気にもしないし、見ることもできない「菌」のせかいをのぞいてみましょう。